

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス「とれいん」			
○保護者評価実施期間	令和7年8月25日 ～ 令和7年9月16日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	令和7年8月28日 ～ 令和6年9月11日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年10月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	広いスペースを生かした活動提供や豊富な活動提供	広いスペースを生かして、思い切り体を動かしてもらえるようなレクリエーションや健康活動などを主に実施しています。 座って取り組む活動と並行することでメリハリをもって過ごしてもらえるよう配慮しています。 できるだけ全員が楽しんで参加してもらえるようルールなどを変更していきながら提供しています。	活動後の参加の様子をその都度振り返りながら、同じ活動でもルールや使用する道具の変更などでお子様全員がさらに楽しみや意欲を持って活動参加してもらえるように取り組んでいます。
2	部屋数を活かした特性に対する対応（構造化）の実施	事前にボードにて流れを把握してもらいます。活動やおやつ、余暇など場面の切り替わりごとで部屋の移動を促し、場面の切り替えや気持ちの整理をスムーズに行ってもらえるよう支援を行っています。 不穏時のクールダウンや個別活動の実施の際に落ち着いてもらえるようなスペースとしても活用しています。	職員間で対応等について振り返りを行いながら、うまくいった部分や合わなかった部分について整理し、より良い対応ができるよう進めていきます。
3	職員間でのスムーズな情報共有、協議が可能。	普段より、支援の様々な話題について終礼などの場で協議を行い、それぞれに意見交換を行っています。互いに尊重し合いながらやり取りをすることができ、共通した認識で支援に取り組むことができています。また、小さな話題でも話すことで各職員が情報を把握することができています。	内容について、レポートへの記載（インシデント等）などを含めて記録として残すようにしていき、協議の流れから現在の対応についてまで確認できるよう進めることで、根拠のある支援や対応に更につながっていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童クラブなどを含めた地域のお子様との交流機会が少ない。	児童クラブ等との交流は、感染症のリスクや互いの関係作りの難しさから実施の方法の課題があり、定期的な機会の提供が難しいと考えられます。下校時間等の関係から普段の中で関わる時間を持つことも互いに難しい状況であると思われます。	3事業所を運営している強みを生かし、事業所で合同の活動などを企画し、それぞれに交流してもらうことで地域の特別支援学級のお子様たちなどとの関わりの機会につながるのではないかと思います。また、興味を持ってもらえるよう事業所の情報の発信を行っていく必要があります。
2	利用者様の更なる安全の確保に向けた取り組み	現在、マニュアルの整備は行われており、マニュアルに基づいた対応の周知やご家族に対する説明を行っています。更なるご家族への周知や個々の事情（アレルギーや発作など）について、細かく把握しての対応が必要と思われます。	今後も、マニュアルについての保護者様への説明や職員の共通認識を図っていくとともに、それぞれの状況について細かく把握し、万が一の状況に合わせた対応ができるよう危険予知訓練等を活用して取り組んでいます。
3			